

秋田市立城南中学校女子剣道部 全国中学校剣道大会女子団体を制覇



男子個人戦も制覇
優勝 鈴木・第三位 金森

昨年八月、弘前市で行われた全国中学校剣道大会で、城南中が女子団体を初優勝した。男子個人では、鈴木(天王中)が優勝、金森(生保内中)が三位に入った。男子団体では天王中が8強入りし、敢闘賞を受賞した。

第二十八回全国中学校剣道大会は、平成十年八月二十一日～二十二日まで、青森県弘前市民体育館で開催された。大会一日目は、個人準々決勝までと団体予選リーグ・決勝トーナメント1回戦が行われ、男子個人戦は、全県・東北を制した金森(生保内中)が着実に勝ち4強に進んだ。また、1回戦で強豪、九州学院中(熊本)の堀内を延長戦の末破った鈴木(天王中)もその後、試合でもメンを中心に決め4強に勝ち残った。その結果、本県選手が2名とも4強に残る好結果となった。

一方女子個人戦は、2回戦で三浦明子(城南中)が大串(佐賀・白石中)に敗れたものの、鎌田理香子(大曲南中)は得意のメンで3回戦に進出した。二人ともまだ二年生であり、来年につながるよい経験となった。



秋田県剣道連盟
〒011-0946
秋田市土崎港中央1丁目11-12
TEL・FAX 018-857-3179
発行者 長谷部 誠

男子団体戦は、東北を制した天王中が聖光学院中(静岡)を4-0で圧倒し、協和中(香川)には、大将戦の末2-1で勝ち予選リーグを突破、続くトーナメント1回戦は国士館中(東京)を4-1で破り8強入りを決めた。女子団体戦は、東北大会初優勝を果たした城南中が予選リーグで千歳中(北海道)に5-0で圧勝、祝吉中(宮崎)には1-1の引き分けとなったが、1勝1分けて予選を通過した。

個人決勝。相手は金森を下した荒武。荒武とは、団体大将戦で対戦、逆転で鈴木が勝っている。お互いが攻め合い、技も出すが決まらず延長戦となった。激しい攻防の末に鈴木がメンを決め見事に全国個人優勝を果たした。



秋田県剣道連盟会長 長谷部 誠
秋田県剣道連盟の発展に日頃より多大のご尽力を賜っています。皆様に対しまして心よりお礼申し上げます。

・ご協力を賜っている皆様に対しまして心よりお礼申し上げます。

日本の伝統文化として培われてきた剣道を、将来に渡って継承、発展させていくことが我々剣道を志している者の使命と考えます。それは、「剣道の理念」にうたわれていて、心身の錬磨による人間形成を通じて、我が国社会の健全な発展に貢献できる人間を一人でも多く育てていくことが大切であり、使命であると考えます。

しかし、近年の「少子化」や「スポーツの多様化」、「高齢化」により剣道人口の減少が憂慮されていることも事実であります。このような時こそ剣道を志す者が情熱を持って稽古に励み、それぞれの与えられた場において剣道発展のために尽力

秋田県剣道連盟会長 長谷部 誠

秋田県剣道連盟の発展に日頃より多大のご尽力を賜っています。皆様に対しまして心よりお礼申し上げます。

さて、今年度より本県剣道界の一層の普及、発展を図り、その活動状況を知っていただくために「秋剣連」を発行する運びとなりました。掲載の主な内容としては、県内外で開催された各種大会の成績結果や各学校、地域・団体において剣道を指導しておられる方々の貴重なご意見、あるいは選手として活躍している方々の活動報告等を掲載し、紹介していくものです。

この広報紙「秋剣連」が、多くの方々へ活動状況や成果を知っていただく有効な紙面となつてくれることを期待してやみません。更には、県内の多くの剣道家の皆様がこの紙面を通じて情報を得て、自己の剣道の修練に役立てていただくことを期待しております。

最後に、本県剣道界の発展に今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

男子団体準々決勝。天
王中は茨城の梅香中と対
戦、先鋒、次鋒、中堅と
メンを取られ前二人で勝
負がついたが、残りの二
人が連取、一矢を報いた。
女子団体準々決勝。城
南中は、熊本の久木野中
と対戦した。これまで常
に先手を取ってきたが、
この試合では先手を取ら
れ大将戦で追いつき代表
決定戦となった。ここで
大将の三浦が中堅の今村
にコテ、ドウを決め逆転
で勝利した。
準決勝の宇ノ氣中(石
川)との対戦では、先鋒か
ら副将まで一本勝ちをし
決勝進出を果たした。
決勝戦。相手は、九州
大会優勝の佐賀・白石
中。先鋒、次鋒を取った
城南中が有利に試合を進
めたが、粘られ大将戦に
持ち込まれた。
しかし、大将三浦は積



右/優勝 鈴木・左/第3位 金森

極的に攻め続け、引き分
け、全国初優勝を達成し
た。

秋剣連の果たしてくれた意味

城南中剣道部監督 高橋 亮

加賀谷宗篤前専門委員長を中心
とした専門部員の努力によりよう
やく県中体連剣道専門部も組織と
して十分に機能するようになった
のが三年前であった。
組織の確立とともに長年の懸案
いよ本格的に取り組み
事ができるような
り、この初期の段階か
ら県剣道連盟より強化
に関する予算が配当さ
れ何の障害もなく強化
の計画が消化されてい
くことになる。その後、中体連
の企画した強化に関する事業に関
しては県剣道連盟よりその都度、
多大なる援助が与えられ、当初の
ねらいが直ちに結果として表れた
のが今夏の全国中学校大会であつ



たように思われる。
中体連の行った強化の内容は、
基本の徹底と遠征による基本の習
熟度の確認の二つであった。確か
に当初は、強化に関して様々な意
見があつたのは事実であるが、他
県の真似をせず秋田県
としての剣道の確立を
目指し、ひたすら基本
に忠実な剣道を体得さ
せるよう指導したことが
が、良い結果をもたら
してくれたように思わ
れる。
平成十九年秋田国体に向け、強
化に関してはこれまで以上の充実
が求められるであろうが、県剣道
連盟の指導や支援を受けながら、
生徒を高校に送り出していきたい。

- ◇男子個人準決勝
荒武 ①②③ 金森
(東京・国土館)
- 鈴木 ④ 迫
(大分・富米)
- ◇同個人決勝
鈴木 ⑤⑥⑦ 荒武
天王 ⑧⑨⑩ 梅香
(茨城)
- ◇女子団体決勝
城南 ⑪⑫⑬ 白石
本数勝ち(佐賀)
- ⑭⑮⑯ 淵上
⑰⑱⑲ 藤井
西野 ⑳㉑㉒ 稲富
土田 ㉓㉔㉕ 百崎

三浦 * 大串
◇優秀選手賞
大野 (天王中)
安田 (城南中)
本間 (城南中)

東北地区代表の女子団
体、男子個人の優勝はと
もに初の快挙である。
全国の並み居る強敵を
相手に無心で戦い見事全
国制覇を果たした鈴木。
常に鈴木をライバルとし
互いに競い合い高めてき
た金森。二人の健闘は素
晴らしかった。
男子団体の天王中もベ
スト4進出はならなかつ
たが、よく健闘した。
そして、2度目の全国

第十二回東北中学校剣道大会 全種目完全制覇

期日 平成十年八月七、八日 場所 山形県南陽市

平成十年八月七日、八
日の二日間、山形県南陽
市において、平成十年度
東北中学校体育大会・第
二十二回東北中学校剣道
大会が開催された。

大会出場が初優勝を飾つ
た城南中の活躍。厳しい
練習を重ねた成果が大舞
台で花開いた。
天王中、城南中ともに
2年生が残っており、来
年、金沢で行われる全国
大会での活躍も十分に期
待できる。(中体連記)

台風の接近による集中
豪雨にみまわれ、大会当
日には会場付近の地域で
も床上浸水等の被害が出
るなど、現地の関係者も
不安を隠しきれない様子
であつた。この天候のた
め選手の出場にも影響が
出るのではと懸念された
が、開会式には出場全選
手による堂々とした入場
行進が行われ、大会の幕
は切つて落とされた。
大会一日目、男子の団
体予選リーグでは生保内
中、天王中が順当に勝ち、
決勝トーナメントに進出
した。
女子団体では城南
中、天王中が実力を
発揮して勝ち上が
り、決勝トーナメン
トへの出場権を得た。
男子個人戦(八名
出場)落ちていた試
合運びで金森選手
が県大会に続いて、
東北大会も制した。
金森選手・鈴木選
手もベスト8進出と
健闘した。
女子個人戦(八名
出場)決勝は三浦選
手、徳山選手の秋田
県同士の対戦とな
り、徳山選手が県大



(森内記)

いた。優勝こそ逃したが、秋田県勢が二位、三位に入賞したことは大健闘といえよう。全国の強豪相手に決して下がることなく向かっていく県勢の剣風は、今後のインターハイ、国体でも十分に全国で通用することが実証された。この経験を自信として、今後益々の精進を重ね、全国大会での上位進出を目指して欲しい。男女を通して大会を振り返ると県外勢の基本を中心とした正しい剣道が目を引いた。剣道に取り組む姿勢、指導者の努力に敬意を表したい。県内の高校生も県外勢の優れた部分を素直に学び、本大会で勉強した全国レベルの剣道を身につけるよう、これからの努力に期待したい。

大会運営に関しては各方面よりご協力をいただき、特別におおね順調に進んだ。特に審判の質の高さが光っていた。監督兼任でご協力いただいた多くの審判の先生に深く感謝の意を述べたい。開会式の簡素化等、来年に向けた課題も忘れてはならない。これまで以上に全国的に権威のある大会を目指し、今後も大会運営に最善を尽くしていきたい。

第27回魁星旗争奪全国高校勝抜剣道大会・第14回魁星旗争奪全国高校女子剣道大会成績一覧

順位	学校名(県名)	監督	大将	副将	中堅	次鋒	先鋒	補欠	補欠												
男子 (198校)	優勝 九州学院(熊本)	米田 敏郎	内村 良一	亀井 隼人	友井浩一朗	櫛野 渉	山下 真吾	櫛野 良介	緒方 貴史												
	2位 鹿児島商業(鹿児島)	萩 雅彦	榎田 康太	船山 龍登	大石 将一	和田 修一	兼田 圭介	平野 正英	武 展弘												
	3位 國學院久我山(東京)	堀 泰宏	江頭 義英	石井 聡	船津 聡司	清水 孝家	諸江 智也	大貫 雄一	三橋 輝章												
	3位 福岡第一(福岡)	江 久	亀山 裕司	井上 史暁	陸田 香樹	田中二三也	手島 由裕	酒井 佑記	佐野 昌則												
女子 (135校)	優勝 左沢(山形)	斎藤 学	関谷 幸枝	相場しのぶ	木下 恵	伊藤 尚美	梅津阿耶子	鈴木 優子	飯岡佳穂子												
	2位 秋田商業(秋田)	村山 健	渡部麻衣子	三浦 百都	須田 夏美	鈴木 理恵	伊藤絵理香	鎌田恵理子	保坂沙紀子												
	3位 土浦日本大学(茨城)	本江 義明	川上 美穂	矢口 良子	粉川 彩	郡司 有紀	熊木 一恵	楠 里美	真原 仁美												
	3位 秋田北(秋田)	木浪 恒二	三浦のみ子	堀井 旬子	青柳由美子	伊藤 瞳	黒崎久美子	長谷川桂子	須田真理子												
男子	最優秀選手賞	内村 良一・九州学院		梶原 和彦・東福岡		榎田 康太・鹿児島商業		竹田 光樹・島原		船津 聡司・國學院久我山											
	優秀選手賞	友井浩一朗・九州学院		佐藤 照之・九産大九州		亀山 裕司・福岡第一		加藤公一郎・近大付													
女子	最優秀選手賞	関谷 幸枝・左沢				梅野 千穂・大村				熊木 一恵・土浦日大				三邊 麻美・埼玉栄				渡部麻衣子・秋田商業			
	優秀選手賞	黒崎久美子・秋田北				川辺 優紀・小出				相場しのぶ・左沢				松本 留美・守谷							
男子	勝抜賞	10人抜1人・9人抜1人・7人抜2人・6人抜5人・5人抜25名										計34名									
女子	取闘賞											計38名									

第38回秋田県段別選手権大会・第22回秋田県女子段別選手権大会

高 段 位 剣 士 の 参 加 に 期 待

期日 平成10年4月29日 場所 秋田県立体育館

第38回秋田県段別・第22回秋田県段別女子選手権大会成績一覧

性	段 位	参加数	優 勝	第 2 位	第 3 位	
男	準初段	163	金森康佑・生保内	児玉卓也・秋西中	鎌田身延・天王中	小林亮太・城東中
	初 段	147	金森康臣・生保内中	鈴木 滋・天王中	市川 亮・将軍野	廣谷晃一・将軍野
	2 段	271	伊藤武徳・秋田商高	小浜健也・秋田南高	土田圭助・秋田工	松岡寛之・大館
	3 段	6	杉山裕一・北武	高島慶人・秋田銀行		
	4 段	21	石塚洋幸・代行倶楽部	及川 昭・秋田銀行	小野 麗・秋田銀行	高橋伸友・男鹿高教
	5 段	23	斎藤淳一・鷹巣農高教	青木 潤・由利工高教	尾形 茂・秋田刑務所	三沢憲之介・能代西高教
	6 段	13	寺田 潤・湯沢高教	佐藤年直・代行倶楽部	小野政樹・県警機動隊	宇佐美泉・秋田刑務所
女	7 段	8	高橋 亮・城南中教	田口 昇・県警		
	準初段	60	三浦明子・城南中	岩井川杏子・湯沢北中	目黒祐美子・男鹿南中	本間彩子・城南中
	初 段	115	徳山亜美・天王中	中野麻利子・仙北中	小西さとこ・仙北中	加藤由佳・土崎中
	2 段	146	渡部麻衣子・秋田商高	三浦百都・秋田商高	中嶋恵子・秋田北	青柳由美子・秋田北
	3段以上	11	須田恵美子・ウヌマ	三浦ちあき・八郎湯中教	鈴木恵美子・湯沢北中教	福原美架・キャンディー

本連盟最初の主催事業である段別選手権大会は、四月二十九日、県立体育館を会場に九八四名(男子・六五二名、女子・三三二名)の参加を得、盛大に開催された。準初段、初段、二段の部は、高校生を中心に参加者数も多く、大変充実した試合の連続であった。

例年のことであるが、高段位になるにしたがつて参加者が激減するのが大変残念である。特に高段位の剣友に各郡市連盟からの積極的な参加をお願いし、その充実ははかたつていかなければいけない。

第四十五回全国都道府県対抗剣道大会 第四十六回京都大会 盛大に開催される

期日 平成十年五月三日・場所 大阪市立体育館
期日 平成十年五月四日・場所 京都武徳殿

全国都道府県対抗大会

全剣連主催三大大会
(全日本剣道選手権、全日本東西対抗)の一つである全日本都道府県対抗剣道大会が薫風満つる大阪の地で盛大に開催された。

第四十五回を重ねる歴史ある大会、今回から最近の女子剣道の隆盛を鑑み新企画として女子二名(先鋒二十才未満、五将三十才以上)を加えた七人制にて実施された。

過去第三十二回、第三十五回大会の第三位以来低迷を続ける本県にとつて、女子を加えた新規大会に起死回生の望みを託した。

- 本県チームは三月七日の予選会を勝ち抜いた以下の選手で編成される。
- 大将 山口 昇 (県警)
 - 副将 伊藤 敏郎 (公務員)
 - 三将 小松 紀久 (県警)
 - 中堅 湯澤 寛 (教員)
 - 五将 湯澤 力 (主婦)
 - 次鋒 打川 聡 (教員)
 - 先鋒 三浦 ちあき (教員)
 - 監督 目黒 大作 (教員)

〈一回戦〉

秋田県 △ ③ 群馬県
三浦 三 反町
打川 一 栗原
湯澤 一 小林
湯澤 一 石原
伊藤 一 松島
小松 一 竹澤
山口 一 谷

大会を振り返ってみると、全試合を通じて女子選手の充実が目についた大会であった。本県女子の現状は、選手数、年齢層のばらつき、面からも大きな遅れをとっているように思われる。これ以上新たな女子剣道の振興策を講じなければならぬ。同時に男子においては、若手選手の台頭がなければ他県との対等な試合展開が出来ない。若手の一層の奮起を期待したい。

京都大会

本連盟の大会出場者数は、一名(六段二名、七段五名、八段四名)、他県に比べて極端に少なく、この事は京都大会の意義を本県剣友がもつと認識しなければいけない時期

第三十八回秋田県中学校剣道大会 秋大附中・城東中・城南中大活躍

期日 平成十年五月十四日・場所 県立体育館

今、中体連のチームは勢いがある。年間を通しての強化練習会での充実振りを見張るものがある。
このような中での全県中学校剣道大会は女子の部では、城南中の大将三浦を軸としたまとまりのあるチーム。他を寄せつ

にきていると思われる。剣道に単に勝負を競う事だけに終始することだけでなく、長い修業過程での年一回の発表(立合)の場と捕らえ、同年代、同段位の剣士が何を求めどしているかを知り組みをしていくの剣道を創造する上で大きな糧になると考える。
過去に本県の大先輩が毎年京都に足を運ばれた事は、自己の剣道の充実だけでなく、広く各県の剣道の現状を知りつつ尚武秋田の剣道の隆盛を願っていたのではないか。
今こそ若手中心に積極的にこの意志を引き継ぐ時に来ていると思われ。平成十一年京都武徳殿建立百年記念である。こぞつて参加してその意義を確認してもらいたい。

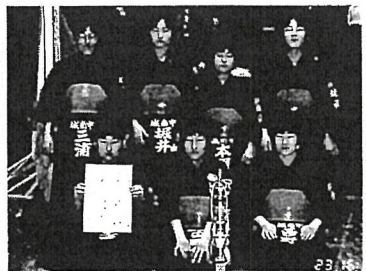
第38回秋田県中学校剣道大会・第9回秋田県中学校女子剣道大会

性	子	優 勝	第 2 位	第 3 位	第 3 位
男	低学年の部 49	秋 大 附 中	城 東 中 A	大 曲 南 中	天 王 中 A
	(優秀選手)	藤原 茂晴・雄信館 進藤 康生・大曲南 田畑 雄大・城 東 齋藤 優人・湯沢北	兼田 芳博・湯沢北 三浦 晃仁・天 王 三浦 洋輝・大 曲 江橋 善行・生保内	石田 貴洋・秋大附 長沢 崇文・仙 北 藤井 隆之・八郎湯 小松 圭・横手南	今野 禄朗・桜 佐藤 仁・象 湯 三森 健介・矢 鳥 米谷 悟一・天 王
	高学年の部 56	城 東 中 A	天 王 中 A	雄 信 館 A	生 保 内 中
子	(優秀選手)	大山 浩幸・雄信館 鈴木 滋・天 王 金森 康臣・生保内 秋元 康良・城 東	佐藤 弘昌・横手南 渡部 正則・飯 島 和泉 大輔・増 田 佐々木祐輔・鷹 巣	佐々木広明・湯沢北 佐藤 洋文・桜 廣谷 晃一・将軍野 山来 善大・御野場	山本 道弘・角 館 佐藤 靖裕・秋田南 竹谷 健作・秋大附 能登 将典・湯沢北
	女子の部 56	城 南 中	湯 沢 北 中	角 館 中	天 王 中 A
	(優秀選手)	加藤 由佳・土 崎 遠藤 由貴・飯 島 三浦 明子・城 南 大山 優美・秋田南	佐藤 美保・湯沢北 那須万実子・岩 城 松橋明日香・合 川 根市 愛・有武館	伊藤 綾・秋田東 田中 榎子・泉 長谷川真子・御野場 小林亜樹子・将軍野	佐藤 瑞穂・羽 城 高野 美香・角 館 古谷 里美・大曲南 伊藤千花子・天 王

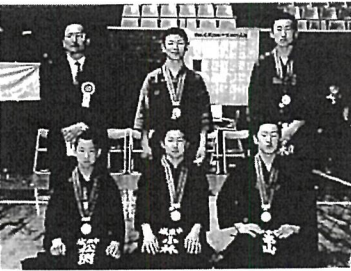
例年天王中(男)を中心に上位競いが展開された内容が一変。試合は予想通り勢力伯仲、その内容も大変レベルの高いものであり見る者をうならせた。
以下各部、試合結果をのせ報告とす



低学年の部・秋大附中



女子の部・城南中



高学年の部・城東中

県体剣道競技(少年の部・成年の部)が岩城町民体育館で二日間にわたって開催された。少年の部(国体の選手選考会は年間を通した各種大会の上位者によって選考されるため、県体の優勝者がそのまま国体の選手とはならない)、県体優勝者として表彰。成年の部については、国体最終予選会として実施、優勝者が国体出場権を獲得する(但し、成年女子は東北二次予選会に進む)。少年の部は、一年生男女の部と分かれて各ブロック優勝者を決定する。上位優勝者は次回国体連剣道部会の強化指定選手としての対象者となるため、各ブロック共に大変熱の入った試合が展開された。(一年生の部優勝者についても国体最終選考会の対象とするよう話し合いがなされている。)成年の部では、女子先鋒、男子次鋒に参加者が多く激戦、見ごたえのある試合の連続であった。一方、女子中堅・大将、

第四十九回県民体育大会剣道競技会
期日平成十年六月二十一日、二十三日 会場 岩城町民体育館
神奈川国体めざして激しい戦

第49回県民体育大会(一般の部)成績一覧

性	人	優 勝	第 2 位	第 3 位	第 3 位
男	25才以下	28 小原 晃・刑務所	高橋 伸友・男 鹿 高	佐藤 健司・機 動 隊	山田 薫・警察学校
	35才以下	51 湯澤 寛・秋田南高	辻村 憲二・刑務所	佐藤 利英・刑務所	向島 洋・稲 川
	45才以下	14 進藤 正広・秋田商高	湯瀬 秀則・県警機動隊	前田 真・大 館	後藤 俊明・県 教 委
子	55才以下	5 小松 誠・秋田西高	佐藤 年直・自 営	前田 貞一・前田商店	大山 清久・県 警
	55才以上	6 小熊 一男・自 営	小池泰左右・自 営	初山 昇・全 農	伊藤 碩士・スポーツ事業団
女子	30才未満	27 若松加菜子・青山学院大	吉川百合子・日 体 大	畠山 樹里・創 価 大	村上 朋子・日 体 大
	40才未満	5 湯澤力ナ工・秋 田 市	筒井 洋美・仁井田小	福原 美架・湯 沢 市	黒田かおり・秋 田 市
	40才以上	2 保坂 節子・住友生命	佐々木圭子・職能開発短大		

第49回県民体育大会(少年の部)成績一覧

(男子)

(女子)

ブロック	人	優 勝	第 2 位	ブロック	人	優 勝	第 2 位
1年生の部A	106	後藤 奨・秋田南	沼倉 裕・湯 沢	1年生の部A	58	保坂裕美子・秋田商	畠山志穂・大 農
1年生の部B		大河誠儀・大曲農	照井文大・秋 田	1年生の部B		菅原玲子・秋田商	大淵 恵・秋田商
1年生の部C		竹村 翔・大曲農	松村浩司・秋 田				
1年生の部D		佐藤圭介・秋 田	米谷千里・秋 田				
2・3年生の部A	163	伊藤武徳・秋田商	太田陽介・秋 田	2・3年生の部A	101	渡部麻衣子・秋田商	前田綾子・秋田西
2・3年生の部B		五十嵐諭・秋田商	高橋 康・秋田西	2・3年生の部B		佐藤友子・経法附	安杖優子・秋田北
2・3年生の部C		松岡寛之・大 館	磯部 基・横 手	2・3年生の部C		三浦るみ子・秋田北	今泉美代子・鷹 巣
2・3年生の部D		高橋 健・秋田西	伊藤敬文・秋 田	2・3年生の部D		伊藤真理子・経法附	伊藤絵理香・秋田商
2・3年生の部E		前沢一成・秋 田	由利 猛・秋田南	2・3年生の部E		青柳由美子・秋田北	鈴木理恵・秋田商
2・3年生の部F		草皆大樹・秋田南	遠藤 滋・秋 田	2・3年生の部F		平元淑子・湯沢商工	小松摩利子・秋田西

男子中堅・副将・大将の部では予選会出場のため対象選手が少なく、現在の選手状況を見ても、続く

ものと思われる。以下大会成績を載せ

第37回全県実業団剣道大会

成年・壮年の部、共に激しい気迫

期 日 平成10年6月14日・場 所 岩城町民体育館



壮年優勝 小松酒店チーム

昭和四十四年以来五城目町を会場に開催されていた実業団大会も、年々参加選手の手年齢層あるいは、女子選手の参加をはじめだいたい様変わりしてきた。実業団関係者との話し合いにより多くの方々から参加してもらう方策はないのかというより、年頭に平成十年の二部制で実施大会も独立させた。例年三十チーム前後の出場チームも本年は四十六チームと

- 《成年の部決勝》
 刑務所②—△保安一
 小原②—①大倉
 仲佐藤②—①御船
 犬尾形 * — 東海林
- 《壮年の部決勝》
 岩野設備△—②小松酒店
 岩黒澤 — ①後藤
 仲飯塚 — ①小松
 犬渡部② * — ①保坂

増加、盛り上がった試合が展開された。試合は成年の部刑務所の二連覇、壮年の部で小松酒店が初優勝を飾った。

第四十回全国教職員剣道大会

期日 平成十年八月十日・会場 大阪府立体育館

激戦突破・ベスト8進出

昭和三十五年の第一回大会が初代野田孝会長の物心両面にわたる支援により開催されてからはや四十年、節目となる第四十回記念大会が発祥の地大阪で開催された。前日、記念大会レセプションが開催、席上、長年の功勞に報いて本県の加藤正治先生が表彰された。本大会は、学校での指導者の立場にある先生方の大会である。

正しい剣道で正々堂々とした試合ぶりはこの趣旨に添った大変格調の高い立派なものであった。秋田県チームは、五月二十四日の県予選会を勝ち抜いた精鋭(伏・小松誠、副・高橋亮、仲・湯澤寛、伏・加賀谷大輔、伊藤秀樹・鈴木恵美子)よく激戦区を勝ち抜き準々決勝に進出する。

準々決勝では熊本県と対戦2対1で惜敗した。試合は一進一退の攻防の引き分けが悔やまれる。何れにしても全員が持ち味を十分に発揮出来た満足いくものであり、選手活躍に敬意を表するものである。

《団体戦》

一回戦	秋田③	△富山	田中
	伏青木②	▽滋賀	花房
	伏加賀谷	*	川瀬
	仲湯澤①	▽	岸川
	副高橋①	*	森
	伏小松	*	乙須
二回戦	秋田②	△新潟	藤塚
	伏加賀谷①	▽	藤塚
	仲湯澤①	*	吉野
	副高橋①	▽	高橋
	伏小松②	*	油谷
三回戦	秋田①	△熊本	岩根
	伏青木①	▽	米田
	仲湯澤①	*	福本
	副高橋①	▽	岩本
	伏小松①	*	大廣

優秀選手表彰

中学校の部 高橋 亮

第15回全国家庭婦人剣道大会

期日 平成10年8月4日・場所 日本武道館

猛暑の東京、日本武道館で開催された本大会は今年十五回目という大きな節目を迎えた。

年々レベルの高さが指摘されているが、今回も予選リーグからどのチームの戦いぶりを見ても甲乙つけ難い試合が多かった。個人は本年が二度目の出場だったが、メンバーの中には十回近くのベテランから、初めての選手もおり、互いに教え合い励まし合って実によく闘った。

対戦チームは千葉県、福岡県で、当初勝ち目が薄いと思われていた福岡を相手に善戦し一勝。しかし、勝てると思つて乗り気で挑んだ千葉に惜敗してしまつた。去年と同

《大会成績》

秋田①	△千葉	吉井
伏村田	*	山崎
仲遠藤	▽	小川
副保坂	▽	込宮
伏佐々木	▽	石橋
秋田②	△福岡	杉本
伏村田	*	後藤
仲遠藤	▽	永沼
副保坂	▽	福重
伏佐々木	*	入江



第四十一回東北・北海道対抗剣道大会

期日 平成十年七月二十日・会場 北海道江尻市民体育館

本県選手団好試合を展開

東北(勝抜戦)、北海(對抗戦)が交互に開催する本大会も四十一回を数えた。この歴史ある大会は東北、北海道の剣道の充実、隆盛に大きな役割を果たしてきた事だ。今後東北軍、大将陣

道(對抗戦)が交互に開催する本大会も四十一回を数えた。この歴史ある大会は東北、北海道の剣道の充実、隆盛に大きな役割を果たしてきた事だ。今後東北軍、大将陣

の強化のありかたを考へていかなければ勝利を得ることがむずかしいと考へる。

東北軍△①北海道軍

《本県選手の成績》

伏青木	潤②	▽	浜田
(2)斎藤淳一	▽	橋本	
寺田	潤①	▽	立崎
佐藤年直	▽	佐々木	
高橋周也	▽	佐野	
田口	昇	▽	高井

これまでの対戦成績では東北軍が大きく負越し、苦杯を舐めている。現在その対策として、本年の全剣連東北合同稽古会に先立って東北軍の強化稽古会を開催し、起死回生を図っていく計画がなされている。

今後の活躍を期待したい。



象的であつた。

明東軍② 西軍 矢東軍① 西軍

天下分け目、関ヶ原の合戦の地、第四十四回の東西を二分する全日本東西対抗大会が新装に成った大垣市武道館で華々しく開催された。

第四十回全日本東西対抗剣道大会

期日 平成十年九月二十七日 場所 大垣市武道館

県民スポーツ大会

矢島藩時代から武道に縁の深い矢島町で、平成十年度県民スポーツ大会剣道競技が開催された。



凌雲館・低学年の部優勝



有武館・高学年の部優勝

- 市対抗・決勝
秋田市② 湯沢市
大友
山脇
伊藤

- 町対抗・決勝
大潟村③ 羽後町
黒澤
渡部

この事が取りもなおさず地域の剣道の新興に且つ本県剣道隆盛の鍵を握るものと信じて疑わな

第四十四回秋田県少年剣道大会

「秋田県剣道史」によると、第一回大会は、昭和三十年能代市立淳城第一小学校を会場に開催された

その間、幼少年剣道の隆盛時代をへて現在の少子化の中で剣道の冬の時代といわれる現在を迎えている。しかし、一方で世の中の価値感の変遷の中でありながら剣道の持つ特性が、今あらためて認識されてきている現実もある。

第44回秋田県少年剣道大会成績一覧

Table with columns for division (Low/Junior/High), rank (1st-3rd), and winning clubs (e.g., Rinsenkan, Nishimura A, etc.).

の垣塙とかしていた。低学年の部では、凌雲館渡部道場の三連覇、高学年は、有武館渡辺道場の初優勝でその幕を閉じた。



社会体育指導者養成講習会

期日 平成十年十月九、十一日
場所 田沢湖青少年スポーツセンター

文部省認定「社会体育指導者（地域スポーツ指導者）剣道」（専門科目）の講習会を兼ねる、全剣

連の第十八回社会体育指導員養成講習会は、十月九、十一日の三日間、本

ありがたく感謝するものである。前回まで三泊四日の講習会であり参加者の時間的制約の面で改善が検討

緊張した受験生事前の勉強の効あつてこの難関を皆、無事終了、講師陣からあきたの剣友の努力に高い評価をいただいた。

今回の合格者の年齢、段位、職業の内訳は次の通りであります。

田沢湖青少年スポーツセンターで実施された。東北地区、仙台開催以来二回目、参加者の協力が得られるか心配しながらの開催であったが、各郡市連盟に對する秋剣連の檄に多くの方が賛同いただき、女性一名を含む七十七名の参加をいただき、盛況に開催できたことを誠に

受講生に對してテキストが送付、自宅研修して課題A・B群各三問中から一問ずつを選び論文提出、講習第一回目通信教育分のテストの実施を受講生はもちろん、主催者側にとつてもはじめての試みの講習会であった。

年齢	職業	人数
20歳代	会社員	九名
30歳代	会社員	一八名
40歳代	公務員	二六名
50歳代	公務員	一七名
60歳代	警察官	四名
70歳代	警察官	三名
無職	無職	六名

心に残る貴重な講習会に参加して

角間川保育園 佐藤良子

社会体育指導員講習会に参加できる機会を得て私も二泊三日の内容の充実した日程を修了できるのか、不安がありました。全剣連を代表される諸先生方をはじめ、各地域で選手や指導者として活躍される高名な先生方に直接の御指導を受けたことは、貴重な体験となりました。指導する立場では、剣道の知識・理解の浅さ、基本的指導の未熟さを痛感し、自ら学ぶ大切さを再認識

させられる機会となりました。また、体力、年齢による女性としての剣道の不安を抱えていたとき、「心と技の剣道」を教示いただき心の晴れる思いもしました。心に残る貴重な講習会だったと感謝しております。これからも、初心と学ぶ気持ちを忘れず、正しい剣道の習得に努めて未来の剣士へ伝え、共に剣道を楽しめる環境をつくりたいと思いま



初戦、島野泰山（大阪）と対戦し、中盤に手元の浮いた所、小手を先取された。その後激しい勢いで攻めたが、決定的な有効打突が出ず敗れ去った。

昨年この大会で秋田県出身、東京在住教士八段長尾英宏（秋田高一明治大）第三位に入賞している。

年度の始め全国から選抜される三十二名の八段剣士による個人戦、第二十二回明治村剣道大会が開催された。

本県から教士八段目黒大作（秋田高教）が初めに選抜された。



明治村 剣道大会
期日 平成十年四月十二日
場所 明治村 保壁堂



第53回国民体育大会(神奈川県) 期日 平成10年10月25~28日・場所 箱根町 連覇熊本に伊藤一矢を報いる

二巡目の国民体育大会も横浜ベースターズ優勝に沸く地元では影が薄らぐ。しかし開会式では感動的な演出がなされ、参加選手たちを十分に魅了した。大会会場の箱根町は自然が美しく、試合に没頭できる最高の地。本県選手団は前日に東海大学剣道部との合同稽古で汗を流し、万全の体制で箱根入り、試合に望む。

第一日目少年男子一回戦は対埼玉。相手は関東屈指の強豪にもかかわらず、本県の先鋒陣は果敢な勢いで相手を圧倒、会場を沸かした。中堅士田は落ち着いた試合運びで二本先取、試合の勝敗を決定させた。その後大将陣も活躍④△の大差で圧勝する。二回戦の相手熊本は来年の国体開催県で、連覇を目指す強豪チーム。力の差、如何ともし難く敗退。しかし熊本大将内村(高技総体個人、団体優勝者)に伊藤が豪快な△を炸裂、一矢を報いることが出来たのが何よりであった。又今回のチームにいた二年生三名にはこの大会での貴重な経験をこれからの試合に生かしてもらいたい。以下各試合成績を載せ報告にかえる。

秋田④△埼玉	為谷
前沢②	前田
土田②	碩山
仲松岡②	紺野
伊藤②	染野
二回戦	
秋田△③熊本	
前沢	山下
土田	古澤
仲松岡	友井
井上	小川
伊藤②	内村
〔成年男子〕	
一回戦	
岡山④△秋田	
三宅②	小原
横田②	湯澤
山根②	進藤
山根②	小松
〔成年女子〕	
一回戦	
秋田△③徳島	
若松	坪井
湯澤	安芸
保坂	手塚

第四十六回全日本剣道選手権大会



期日 平成十年十一月三日
場所 東京・日本武道館

波大での強化合宿や日常の稽古を精力的にこなした大会に備えた。開会式、大観衆の注目の中、胸をはって堂々とした進行姿は印象に残った。

第四試合目に登場、相手は警視庁を代表する若手のホープ岩佐英範選手二十八才。年令差を感じるものが高橋選手は、多くの大試合を経験している兵

相方激しい打ち合い、長い鏝ぜり合い、緊張した攻め合いの連続なれど有効熱突なく、そのまま延長戦、五分五分の熟戦の末岩佐の小手が決まり勝負が決着延々二十分余りの試合であった。

その後、岩佐は前年優勝宮崎をも敗り堂々の第三位であった。あらためて高橋選手の健闘をたたえたい。

第三十七回全日本女子剣道選手権大会



期日 平成十年九月十三日
場所 名古屋中村スポーツセンター

今春日体大卒業荒川亜希子三段(出場二回)は昨年に引き続き続いての出場、高校時代のキャリアも申し分なく上位進出を期待したが、一回戦、小河(埼玉)選手と対戦惜しくも延長戦の末敗れた。

試合は小河選手の激しい攻めで荒川選手は自分の剣道が出来ず収支防戦一方、反撃の機会のないまま四分間が経過延長にもつれ込む。延長戦においても相手の激しいたたみこむ攻めに最後まで対応出来ずついに下がった所を面を打たれ敗れる。

試合終了後荒川選手は「立合の激しい攻めに最後まで直る事が出来なかった。もう一度緊張感をもった稽古を積んで出なしたい。来年こそ是非上位進出をはたしたい。」と語った。

訃報

剣道範士八段 児玉 秀雄



先生は平成八年体調を崩され入院、一回目の手術を受けられ回復、秋剣連強化練習会、仁誠館道場師範として意欲的な稽古をされておりました。平成十年に秋田県道場連盟会長に就任、今後の活躍が期待されていた矢先、昨年八月病气再発、再度手術を受けられた。

先生自身これからの幼少年の剣道に

ついて抱負を熟く語られていただけに、その夢が実現できなかった事がさぞご無念であったろうと思います。

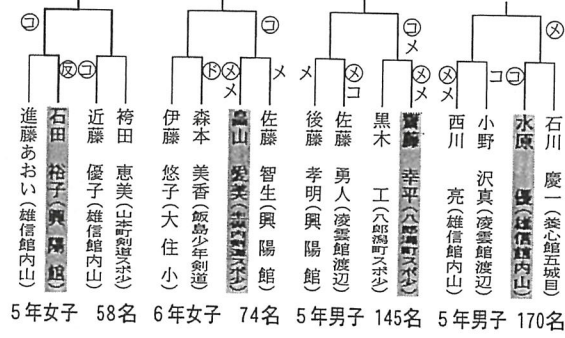
二月二十二日、秋大附属病院で家族に見取られ苦しむ事なく七十二才の生涯を閉じられました。

葬儀は二十七日、現市に於いて先生のご遺徳を現すように五百名を越える会葬者の中でしめやかに執り行われた。尚、九都市連盟からも多数の剣友がご会葬に駆け付けて頂きました事を、ご報告いたします。

底辺拡大強化小・中・高学年別選手権大会

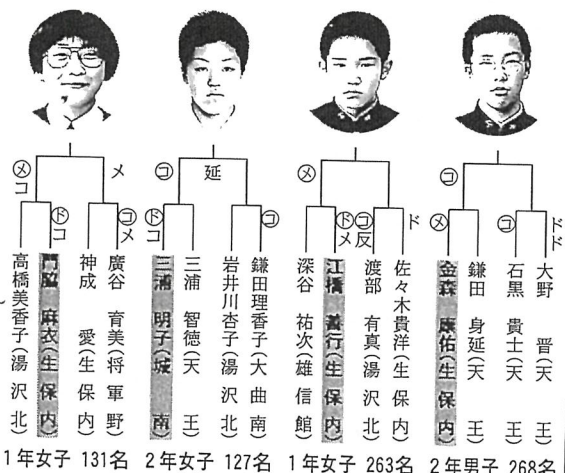
第1回小学校学年別大会

期日 平成11年1月31日・場所 井川町町民体育館

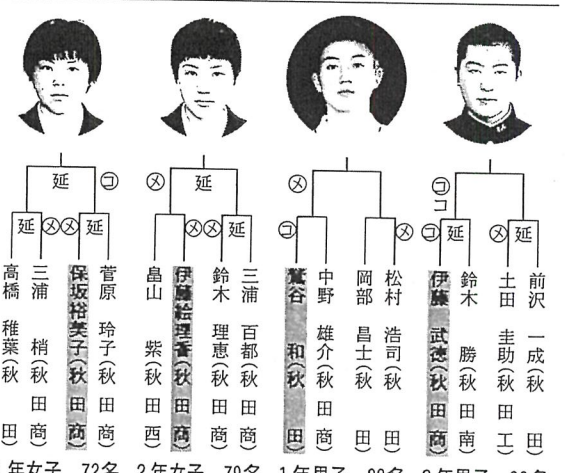


平成十九年秋田国体強化に照準を当てた秋剣連の強化事業のひとつである、中・高学年別大会も早いもので第三回を迎えた。各種強化事業はもとより、各学校単位での普段の稽古が効を奏したのである。う、昨年は城南女子の全国優勝、男子個人の優勝、第三位と素晴らしい活躍があった事を関係者一同感激すると共に、確かな手応えを感じている。本年度より県体協より幼少年の強化対策として予算計上もなされ中・高に遅れながらも第一回小

学校学年別大会が開催された。強化部で学年規模についていろいろ議論をつくし今回は五、六年生男女を対象に設定した。厳冬期での開催という事で選手、引率者には大変ご難儀をかけたことをお詫び申し上げます。このような時期に開催せざるを得ないことをご理解していただきたい。最後に高校学年別では、個人成績の上位者の得点制をもつて学校対抗戦を実施している。これを順次小・中にも広げていきたい。



第3回中学校学年別大会
期日 平成11年2月21日・場所 県立体育館



第3回高校学年別大会
期日 平成11年2月11日・場所 県立体育館



第十三回全県都市対抗剣道大会
期日 平成十年九月二十三日・場所 田代町体育館

堂々湯沢北辰チーム優勝

大館、北秋剣道連 った試合が展開された。盟主管により第十三回このことは各都市単位で回都市対抗剣道大会の継続的な稽古会の実施が田代町体育館を会場に、十六チームの参加を得盛大に開催された。

試合にさきだち荒谷剣連副会長から、本県の剣道界をリードする立場の一般剣士による大会、正々堂々格調ある試合を行ってほしいとの力強い挨拶があった。試合は、予選リーグ戦から接戦の連続、僅差の盛り上がり。

優勝選手 寺田 潤(湯沢雄勝)

最優秀選手 森内厚志(鹿角)

優秀選手 菊地重則(大曲仙北)、山田浩光(能代山本)、湊 和樹(男鹿南秋)、佐藤健司(秋田)、青木 潤(本荘由利)、三浦浩幸(大曲仙北)、古谷育子(横手平鹿)、高久 育(湯沢雄勝)

決勝戦 (大会成績)

湯沢北辰(○) △本荘由利

優勝戦

湯折川(○) 三浦

山脇(○) 徳山

仲高久(○) 藤田

向島(○) 青木

伏寺田(○) 齋藤

第三位 大館・北秋 大曲仙北A

秋田市剣道連盟 この一年の歩み

会長 加藤 正治
理事長 進藤 正広

○ 幼少年対策の現状
秋の大会で級別個人戦を開催し、小学生全員が参加できるようにした。大会が盛り上がるようになった。大会運営は大変であるが、選手は、意欲的に参加している。

○ 講習会
幼少年指導者講習会では、内山真先生に講話をいただいたあと、参加者全員で指導についての問題点や疑問点について、ディスカッションを行った。今後も引き続き内山真先生を中心に、継続して講習会を行っていきたい。

○ 地区の大会並びに行事
春秋の市民大会は、小学生から一般まで参加、盛大に行われている。会場の都合がつけば、複数チームの出場や、一般選手が多数出場しやすいように、二部制を設ける計画をしたい。

恒例の寒稽古、土用稽古の基本的なスタイルは、変わっていないが、小・中学生は、基本練成や他校の生徒や一般の先生達との稽古を楽しむにしているが、もう少し一般の方の参加が望まれる。

○ 練習会は毎週水曜日（土崎体育館）・金曜日（秋田刑務所）に行っている。特に秋田刑務所での稽古は、小・中学生の参加人数が増えており、道場狭しという状態である。秋田刑務所の剣道部が、基本練習を丁寧に参加人数の増加につながると指導していることが、参加人数の増加につながると思われる。

○ 特に活躍された団体・個人会員
小玉清先生が、秋田市より普及活動賞を受賞された。団体では、秋田城南女子チームが全国中学校大会で団体優勝を成し遂げた。また、秋田で行われた全国選抜少年剣道大会で、中学校男子の部で、雄信館内山道場が2位、小学校低学年の部で、仁誠館道場が優勝した。全日本少年剣道錬成大会では、小学校の部で雄信館内山道場が3位に入賞した。

最後にになりましたが、当連盟副会長兼理事長で在られました、範士八段児玉秀雄先生が、今年二月二十二日お亡くなりなされたことを報告申し上げます。

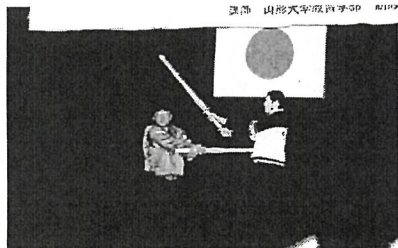
男鹿・南秋剣道連盟 この一年の歩み

会長 渡辺 誠之助
理事長 淡路 芳和

「剣道」を通して人々が集い、相手を思いやる稽古をし、稽古後は杯を片手に夜のふけるまで語り合い、自由な雰囲気をもつのが男鹿・南秋の特徴である。

さて、当連盟でも幼少年剣道人口・一般青年・剣道人口の減少は大きな問題となつている。十数年前に「六三四の剣」というマンガが放映・発売され、剣道人口は増加したが、その後、他のスポーツ、例えばサッカーのように、さわか・かっこいい路線に子供達の気持ちが流れていっているのが現状である。この対策として、各種大会の開催・講習会の実施等の充実を計り、特に講習会については、最新の剣道講習として、秋田市出身の竹田山形大、学助教授を講師にお迎えし、小中学生・地域指導者・父兄約二五〇名を対象に開催し、終了後のアンケートの中に「内容が新鮮で引きつけられた」という評価を得て、今後さらに内容を充実した楽しい講習会の企画検討している。

また、各地域の指導者研修として、全剣連の社会体育指導者講習会に男鹿南秋より費用の一部負担をし十数名の参加者を得、さらに各地域持ち回り合同稽古会（最低月一回）並びに年一回の合同稽古会を実施、内容的には前半は小中学生を対象とし、後半は、高校・大学・一般の稽古会講習会活動をしていく。その成果として、郡市対抗上位入賞・県民スポーツ大会の優勝・さらに、天王中の中体連連統優勝等々が特筆される。これも一重に地域会員・中学校各先生・各父母会会員の深いご理解があつて感謝している。最後に風通しのよい次世代へつなげられる組織作りとして発展するよう邁進してゆく所存である。



本荘・由利剣道連盟 この一年の歩み

会長 藤井 純一
理事長 田口 洋

一 幼少年対策の現状
本郡市では、小学生ができるだけ級位を取得しやすくなるため、審査会を年間五カ所で開催している。また、平成九年度から小学生を対象に級別別の個人戦を開催し、参加者が年々増加している。

二 講習会・行事等
平成十年度は講習会は開催できなかったが、平成九年度までは、国際武道大学助教授井島章先生を講師に、小中学生の指導と一般を対象として指導法・審判法の講習会を開催していた。

その他、郡市連盟の各支部が主体となり、幼少年から高校生・一般を対象とした土用稽古や寒稽古が実施されている。四十年以上も継続している地域もあり、充実した内容となつている。

三 大会等
平成十年度の大会で特筆されるのは、郡市対抗大会で、本郡市チームが準優勝したことである。本郡市連盟では、早くから強化部を設置し、担当を中心にして稽古会や勉強会を開催している。一般有志による週一回の稽古会も行っており、取り組みの成果が表れたと考へている。平成十一年度は、本郡市での開催となり、一段と張り切っている。

以上のように、級位取得者の数が増えていることは喜ばしいことであるが、これまで取得しなかつた団体が試合出場のために取得したものであり、実際の剣士の数は変わっていないものと考へられる。

郡市連盟としては、級位の取得や大会参加が子供たちの剣道を行う上で、意欲の向上や正しい剣道の実践につながることを期待したい。

今後の取組みとして、現在数多く行われている大会の在り方を再検討し、大会内容や回数等に改善を加えていきたい。

湯沢・雄勝剣道連盟 この一年の歩み

会長 戸嶋 常一郎
理事長 前田 貞一

(一) 五月三日、県南小・中学校剣道大会を湯沢市総合大会で開催。約三五〇名の県南の少年剣士が元気づけの試合を展覧しました。

(二) 八月十一日、当郡市ご出身の菅原恵三郎範士・奥山京助範士を偲ぶ会を開催。両先生の御遺族をはじめ、両先生を慕う剣道関係者を含め七五名のご出席をいただき、お二人の思い出と、ご教訓を偲びました。

(三) 各種大会での活躍
○第46回都道府県大会に、県代表として、伊藤敏郎・打川聡五段が出場。

○東北総体成年男子個人戦で、寺田潤六段優勝。

○全県高齢者大会七十才以上の部で、田原直也七段が優勝、全国年輪ピック大会に出場(愛知県)。

○第44回全県少年大会で、有武館チーム優勝。

○第13回全県市対抗大会で、湯沢北鹿チームが優勝(10年振り)。

(四) 十一月二十九日、第16回湯沢市雄勝郡剣道連盟旗争奪実業団大会を有武館にて開催。今年も他郡市からも参加いただき、

(五) 一月二十四日、第20回記念三時間立切試合を盛会裡で開催。

○基立選手4名は、挑戦者33名と対戦し、会場に詰めかけた応援団や、剣道関係者、後輩たちの声援にこたえ、4人とも最後まで見事に立ち切りしました。当連盟代表の東海林一義選手が26勝2敗5分の好成績で奥山京助範士旗を獲得しました。

○試合前日の二十三日には、第20回記念祝賀会を開催し、第20回を迎えることができたのも、各連盟関係者と地域の応援の賜と感謝の意を表しました。

○次回から女子立切試合も合わせて行います。

(六) 三月六日、戸嶋常郎会長の秋田県スポーツ賞「荣誉賞」受賞祝賀会を開催。剣道連盟関係者、体協関係者、学校関係者など約一七〇名出席し、先生の受章をお祝いいたしました。

(七) 三月二十七日、郡市中学校錬成大会を開催。郡内五校の中学生が集い、錬成稽古会、並びに試合を行いました。

横手・平鹿剣道連盟 この一年の歩み

会長 細谷 壮貞
理事長 最上 慶治

本連盟の最大の行事として県南小中学校剣道大会がある。この大会は、大正元年、当時の横手中学校(現横手高校)において、県南三郡の少年剣道大会が開催されて以来、美入野原頭で合いみえようと、少年剣士達が血涙を流したものです。昭和十年代後半から、諸般の事情により中止のやむなきに至っており、多くの有名剣士を排出した由緒ある大会を、昭和五十二年から横手市平鹿郡剣道連盟が主催し、県南小中学生の錬成の場として大会を復興させた。

○今年(第二十三回目)を迎え参加チーム五十三チーム、三百名の各選手が一同に会して盛会のうちを終えた。

○さらに、増田町町制施行百周年を記念して、同町で開始された横手市平鹿郡小学校剣道大会は、第四回を数え、郡市小学校の剣道振興の核となってきた。

○これらの大会運営の成功をめざし、毎年稽古会や審判講習会等も開き好評を得ている。

○また、連盟会員相互の交流並びに技術の向上をはかり、毎週木曜日稽古会を実施し、春と秋には連盟旗争奪戦を開催し親睦をはかっている。

○他に、第三十回横手市民剣道大会は郡市の少年も参加し、小学校低学年から一般まで、十プロックの試合も恒例の行事として開催している。

○幼年対策として、昭和三十七年に発足した横手市剣道スポーツ少年団は、優良団体として文部大臣賞など多くの賞を受けている。この団体発足以来現在まで毎週日曜日の朝稽古や団活動・増田町の尚志会・平鹿町・雄物川町・十文字町・大雄村の各少年団活動にも連盟会員が熱心な指導にあたり、

○中学校強化対策として合同錬成稽古会、並びに講習会も開催している。連盟会員総数百二十名はそれぞれ立場で活動しているが、若い指導者不足と、幼年剣道人口減少が問題点として上げられる。

大曲・仙北剣道連盟 この一年の歩み

会長 進藤 秀夫
理事長 佐々木 茂

本郡市連盟における平成十年度の幼年対策に關連する事業は、第2回小学校学年別剣道大会、昇級審査会、国際武道大学の丸橋先生を招いての講習会(今年で四回め)、ライオンズクラブとの共催による小学校剣道大会(第二十二回)などが挙げられる。学年別大会は秋剣連の補助を受けて行われた事業で、約百八十名の選手が参加して行われた。本郡市の中から一月の県学年別大会で上位入賞を果たした選手もいた。昇級審査には約二百名の小学生が挑んだ。基本の定着が各地区各団体によつてあまりにも差があつたため、受審した小中学生とその指導者を対象に、八月の丸橋先生講習会に参加してもらい基本の徹底を図つた。その丸橋先生の講習会では、先述の他、全郡市の中高校生指導者、一般の指導者、愛好者が一堂に会し理論に基づいた剣道の基本を徹底的に指導していただいた。参加者全員が基本の大切さについて改めて痛感した有意義な事業であった。ライオンズクラブとの共催の大会は本郡市に定着した大会でこの大会を目指してがんばっている選手も多い。賞品もいろいろと、選手の大きな励みにもなっている大会である。

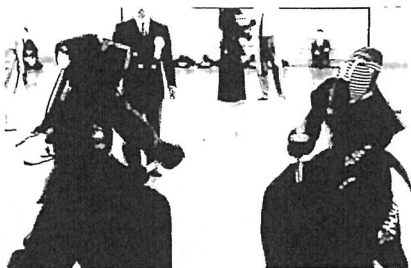
○幼年対策以外の事業としては、毎週木曜日に連盟主催で行われる稽古会がある。一時間の道のりを毎週通つた生保内中学校の金森康臣選手(全中個人三位)をはじめ、郡内各地からたくさんの中学生や高校生も参加して、一般の先生方の胸を借りた。稽古会に参加している一般の中からも、六段一名、七段一名が誕生した。また、田沢湖町で行われた、社会体育指導員講習会でも本郡市から八名の合格者を出している。

○剣道人口の減少は本郡市でも大きな問題ではあるが、「楽しんで剣道を…」を合言葉に会員が親睦を深めながら底辺の拡大にも努めている。

能代・山本剣道連盟 この一年の歩み

会長 花下 哲夫
理事長 宮 腰 登

能代山本剣道連盟のメ
イン行事である四市四郡
剣道大会が第40回目とい
う節目の中で盛大に行わ
れました。昭和34年より
開始されたもので地域の
剣道振興を願うこと
でした。いまも脈々と引
き継がれているわけで
す。剣道錬成山本大会も
12回目にもなり、年々そ
の内容も濃いものになっ
ておりさらに充実したも
のにしたいと思っております。
まず、幼少年対策につい
ては当連盟としても積極
的に取り組んでいくこと
であり、四月十九日に
第一回の幼少年練習会と
して、基本練習、練習試
合、講話などを行いました。
年間でも合計9回を
順序立てて行ったところ
です。今後、少子化の中
での剣道人口の減少をど
う防いでいくのか頭の痛
いところです。当連盟の
行事も毎年5月に入ると
目白押しとなり、桜まつ
り剣道大会、船山旗争奪
中学校剣道大会、土用稽
古会、平山・吉武杯剣道
大会、市制記念剣道大会、
スボ少本部長杯剣道大
会、寒稽古会、昇段・昇



級審査会、各種講習会等
日程の調整が難しい中で
確実に行事を消化したと
ころです。今後も秋剣連、
他地域連盟との連携を十
分取り合いながら各種行
事を着実に遂行したいと
考えております。平成10
年度中には当連盟の中で
剣道六段審査で3名合格
(納谷栄之助、船山昭、
加藤美喜夫の各氏)とな
り喜んでるところです。
一方、悩みとしては、
若手の人材が少ないとい
うことです。20代、30代
の人達が連盟の中心とし
て活躍してくれることを
大いに望んでるところ
です。

大館・北秋剣道連盟 この一年の歩み

会長 荒谷 浩
理事長 長崎 宏 紀

私共剣連では、年度始
めの四月に開催している
三市三郡剣道大会に始ま
る。この大会は小学校よ
り一般までの幅広い大会
である。高等学校、中学
校の大会への審判派遣、
土用稽古会、大館市民剣
道大会、合川町々民剣道
大会、寒稽古会、新聞社
主催の県選抜中学校新人
剣道大会、合川町剣友会
主催の小林大二郎杯剣道
大会と各種大会への審判
員の派遣を行っている。
ここ数年幼少年剣道人
口の減少が当地区におい
ても顕著に表れている。
地区の中学校において
の指導者が不足しており
年六回程度の幼少年講習
会を開いている。午前中
講習会、着装より始め、
級審査会に対応できる様
な基本的指導をし、午後
一般の方々の稽古会を
行っている。小学生、中
学生を対象としている
が、少しでも剣道離れに
歯止めが出来るなものか
と、考えている。

中学校の剣道人口の減
が叫ばれているが、高校
入学後の剣道離れが目
に付く様になっている。こ
こにも中学校の指導者不
足が影響しているものと
考えている。今後、若手
指導者の育成に心がけ
講習会等へ積極的に参加
する考えである。
本年度は、鷹巣高校女
子剣道部が東北大会に出
場するなど明るい話題が
提供され、これに他の中
学校、高校も続いて欲し
いものである。
長年の課題である体育
館等の会場確保の問題が
ある。大館市内において
は冬場の体育館の確保が
出来ず、田代町、鷹巣町
へお願いしている現状で
ある。行政等へもお願い
してはいるが、いまだに
解決出来るまでには至っ
ていない。
十九年国体に向け、体
育館新築構想があるが、
中学校の大会の開催出
来る規模の武道館の併設
を体育協会にもお願いし
ている。

鹿角剣道連盟 この一年の歩み

会長 浅利 悦 造
理事長 熊谷 良 政

平成十年度の事業、特
に主催事業について振り
返って見る。
●四月十二日
「春季鹿角剣道大会」
小・中・高校生による
●十月十一日
「秋季鹿角剣道大会」
小・中・高校生による
団体戦及び個人戦
●十一月八日
「東北少年剣道大会」
東北地区三市三郡の小
学生による団体戦及び個
人戦(低・高学年)
●平成十一年一月十日
「鹿角地区立ち切り試合」
鹿角剣道連盟、大館・
北秋剣道連盟の一般選手
による、一時間の立ち切
り試合。その後、幼少年
から一般までの稽古会を
開催。

その他、毎月第二土曜
日の合同稽古会、毎週月
・金曜日の連盟稽古会を
行っている。
中体連・高体連は総体
等の大会があるため、幼
少年の強化と一般の強化
の機会を設けている。
その結果は、花輪修道
館、花輪幼少年剣道教室
の全日本選抜少年剣道錬
成大会への出場に見られ
るとおりである。一般に
関しては、近年、若手の
会員が増え、盛り上がり
を見せている。今後力量
を高めるべく、また、地
域の指導者としての自覚
を高めていきたい。
中学生に関しては、全
県中学生体が開催された
ことにより、県強化練習
会を鹿角で二回行い、錬
成会も実施できたこと
は、地元生徒達にも良
い啓蒙・普及となった。
高体連に関しては、各
種大会や稽古会等で指導
強化に支援しては、中
高の連携や、指導者不足
等、まだ課題を残してい
るものの、でさうる協力
体制を作っていくたい。
連盟として級・段審査
を実施、各種大会の運営
を通して、剣道を志す幼
少年・愛好家へ修業の機
会と環境を作る、その責
任の重さを痛感してい
る。今後も事務局を組織
的に運営し、成果を高め
ていきたいと考えている。
各郡市剣道連盟には、
協力と連携を、県剣道連
盟には今後ともより一層
のご指導をお願いしたい。

高 体 連

県高体連剣道部会は県南支部十七、県北支部十六、中央支部十七の五十校によって組織されている。剣道連盟をはじめ多くの方々のご協力をいただき、中体連とも連携を図りながら、地区大会、全県大会、また選手強化事業等の企画運営にあたっている。

一、主な主催大会の成績

全県総体

(期日) 6月6〜9日

男子団体

優勝 秋田商
2位 秋田南
3位 秋田工

女子団体

優勝 秋田北
2位 秋田商
3位 秋田西

男子個人

優勝 松岡 寛之(大館)
2位 小浜 健也(秋南)
3位 前沢 一成(秋田)

女子個人

優勝 伊藤真理子(経附)
2位 須田 夏美(秋商)
3位 堀井 旬子(秋北)

女子個人

優勝 五十嵐真弓(本荘)

全県新人大会

(期日) 12月5〜6日

男子団体

優勝 秋田商
2位 秋田田
3位 秋田代

女子団体

優勝 秋田北
2位 秋田商
3位 秋田西

東北選手権大会

(期日) 6月27〜28日

男子団体

3位 秋田南
3位 秋田商

女子団体

3位 秋田商

男子個人

優勝 前沢一成(秋田)



優勝 前沢一成(秋田)

東北選抜大会

(期日) 1月15日

男子団体

優勝 秋田工
3位 秋田商

女子団体

2位 秋田商



秋田高校

インターハイ

(期日) 8月6〜8日

男子団体

秋田①③ 鹿児島実業
秋田②④ 鹿沼栃木

女子団体

予選リーグ敗退

男子個人

本数勝

女子個人

秋北②④ 高知(高知)
秋北①③ 筑陽学園(高知)

男子個人

予選リーグ敗退

女子個人

松岡(大館) 3回戦敗退
小浜(秋南) 1回戦敗退

男子個人

伊藤(経附) 2回戦敗退
須田(秋商) 2回戦敗退

全国選抜大会

(期日) 3月27〜28日

男子団体

秋商④ 大社(島根)
秋商① 阿蘇熊本

女子団体

秋商② 海老名神奈川
秋商③ 西大寺岡山

男子個人

本数負

女子個人

本数負

二、加盟校の現状

現在本部会には男子三十八チーム、女子三十五チーム(計五十校)が加盟している。前年度と比較して大きな差はないが、学年別の構成を見る限り、次年度からは少子化、剣道離れの影響を受けそうである。団体戦に出場できない学校も多くなると予想されるため、

・地区大会における個人戦の全員参加

・全県規模の個人大会の開催(剣道連盟主催学年別大会)

・中体連との合同強化練習会

等の対策を講じて、選手

の意識の高揚並びに強化

に努めている。

三、運営の課題

強化について

大阪国体で女子チーム

が五位に入賞した以外、

近年高体連では全国大会

での入賞がないのが現状

である。十九年国体に向

けての強化のあり方につ

いて、高体連では強化部

を中心に検討を進め、一

昨年より具体的な実践に

入っている。その一つと

してミニ国体の選手選考

方法がある。以前は県民

体育大会で上位に入賞し

四、高体連関係者の各種大会での活躍

全国教職員大会

秋田県チーム

青木 潤(由工)

加賀屋大輔(角館)

湯沢 寛(秋南)

小松 誠(秋西)

ベスト8

国民体育大会

成年の部

湯沢 寛(秋南)

進藤 正広(秋商)

小松 誠(秋西)

2回戦敗退

全国都道府県大会

湯沢 寛(教職員の部)

2回戦敗退

県高体連剣道専門部組織

部長 芳賀 京子

副部長 小川 行男

副部長 京極 敏

副部長 小松 誠

全 部 小松 憲夫

南 部 今野 憲夫

北 部 佐々木 寛

中 部 湯沢 寛

各専門部部長

強化部 進藤 正広

審判部 前田 真

競技部 熊谷 浩司

記録部 須田 紀子

総務部 木浪 恒二

社会人・実業
団・教員・警察
務官・警察 刑業

一、四団体剣道交流会活動

現在の連盟の最大課題である、平成十九年度秋田国体に向け、一般の部においても強化策を推進中であるが、その一環としてスタートしたのが、教員、実業団、刑務官、警察官による「四団体剣道交流会」です。

日(土)に秋田銀行体育館において開催し、第二回は昨年の十一月二十二日(土)に第一回と同じ会場(土)に開催しました。

警察官が一年に続き全勝で一位、一昨年四位の教員が若手の活躍により二位、一昨年二位の刑務官が主力選手の病欠で三位、一昨年三位の実業団が善戦及ばず四位というものでした。

結果は前記の通りでしたが、交流会の良さは試合終了後に審判等を含めた全員による合同稽古会にあり、日頃剣を交えない者とも稽古できる絶好の機会であり、各人の技能向上に大いに役立つものがあるが、今後とも多くの人々が交流会に参加し稽古していただくことを希望しております。

(大山清久記)

二、実業団剣道の現状について

○実業団剣道の現状
本県剣道において、「実業団剣道」と言った場合、これは「一般剣道」と同義語となる。教職員・警察官を除く、いわゆる一般剣道愛好家が対象であり、その範囲はかなり広いものとなっている。ちなみに、一昨年より相互の交流と錬成を目的に開催している「四団体剣道交流会」は、教職員・警察官・刑務官・実業団の四団体でリーグ戦を行っている。稽古会を行っている。この大会の実業団のメンバーは、銀行員を中心に、地方公務員、一般会社員でチーム編成が成されている。

第三十七回を数えた秋田県実業団剣道大会は、従前、県体、全日本女子県予選と同時開催としていたものから独立させ、単独開催として、より充実をはかった。本大会はまた、第三十六回大会から年齢により青年の部と壮年の部に分け、中高年の大会参加促進をはかってきた。この結果、年齢区分前の第三十五回大会の参加チーム数が三十九チームであったものが、第三十六回では四十七チーム、第三十七回では四十六チームに増加している。現在の年齢区分

(大山清久記)

三、刑務所剣道の現状 (東北・全国)

は三十五歳を基準としていて、全日本実業団剣道連盟主催の高壮年剣道大会(個人戦)は、四十歳以上の参加資格であり、妥当な年齢区分について更に検討の余地がある。いずれにしても、本県実業団剣道の要となるこの大会を大切に育てていかななくてはならない。

○全日本実業団、東北実業団剣道大会の状況
毎年九月十五日に日本武道館において開催されている全日本実業団剣道大会には、本県から秋田銀行と北都銀行が出場している。今年度は全国から三百二十三チームが参加して開催された。本県の秋田銀行は、三回戦にて東京システム運輸(本社)に1-0にて惜敗、北都銀行は四回戦でNTT関東に3-1で敗退した。なお、現在、全日本実業団剣道連盟の会長を努めておられる加賀谷誠一氏は本県出身の剣兄である。

(柏木幹夫記)

四、警察剣道の現状

昨年度は、春先からの怪我人の続出、ましてやチームの中心選手二名がアキレス腱断裂などの最悪の状況で迎えた管区(東北)大会、結果は二勝三敗の惨敗。剣道特練員として指名され、常に部内から期待を受けている者たちには、状況はどうであれ結果的に負けの評価でしかない。

その後、現状を打開するため徹底的に話し合い、来年度への大会の雪辱と全国大会入賞という目標を持ち続けるため、年間を通じて週二回の稽古を行う事に決めた。そして、これを継続するうちに各自が目標に向けて稽古や自主トレーニングに積極的に取り組むという相乗効果も生まれた。

(若松宏樹記)

迎えた全国大会。持っている力を出し切る事に集中、結果は、三部準優勝、目標を達成した喜びと多くの教訓を得た。平成十一年、地元での管区大会、又、全国大会では一部転落チームとの対戦が予想される等、次なる戦いに向け、本年度の目標を達成すべく努力している日々である。

居合道 杖道



一、本年度の総括

秋田県の居合道及び杖道の普及率は他県に比べ低く、特に若年層にあってはほとんど普及されていない。また、各都市連盟としての活動も低調で、活動は同好会が中心となつてゐる。

県内大会 県内の居合道及び杖道の試合は、秋剣連主催の秋田県居合道大会・段別選手権兼東北予選会のみであり、杖道の試合は実施されてない。

一名出場したが、予選リーグで敗退し、東北六県で最下位であった。全日本居合道大会では、五段、六段、七段の部にそれぞれ一名ずつ出場したが、全員が二回戦で敗退し、団体で三十位であった。

全日本杖道大会では、五段の部に、四名(二組)が出場し、戸澤郁雄・吉田春喜組(写真)が準々決勝(ベスト8)まで勝ち進んだ。

審査会 全剣連主催の六段以上の居合道昇段審査会では、七段二名、六段三名、杖道昇段審査会では、六段三名と、多数の昇段者がでたこと、今後の指導体制も充実していくものと思われる。

本年特筆すべきことは、八名が六段、七段昇段に合格したことである。これは、長年に渡り修練された努力の賜であり、今後とも居合道、杖道愛好者が益々修練を積んで昇段されることを期待したい。

秋田県の居合道、杖道について全国的な視野から見てみると、まだまだ低いレベルにある。今後は、居合道及び杖道発展普及のため、剣道愛好者に対する講習会を実施するなど具体的な対策が必要である。

- 個人の一部
 - 四段の部 予選 栗田 英幸
 - 五段の部 予選 高嶋 忠三
 - 六段の部 予選 阿部 秀昭
 - 七段の部 予選 内田 幹夫
 - 八段の部 予選 石田 純士
 - 九段の部 予選 木内 恵一
 - 十段の部 予選 浅利 芳明
- 第二十五回全日本杖道大会
 - 五段の部 準々決勝 ベスト8 戸澤郁雄・吉田春喜 一回戦 木内恵一・渡邊重治
- 第三十三回全日本居合道大会
 - 個人の一部 第三十位 (十月十七日)
 - 五段の部 二回戦 阿部秀昭
 - 六段の部 二回戦 大畑博正
 - 七段の部 二回戦 千田信治
- 三、講習会
 - 居合道地区講習会 (六月二十七・二十八日) 五名参加
 - 第七回杖道中央講習会 (七月三日・五日) 二名参加
 - 第二十五回居合道中央講習会 (九月五・六日) 二名参加
 - 平成十年度秋田県居合道講習会 (十一月十五日) 四十名参加
 - 平成十年度秋田県杖道講習会 (十一月二十三日) 二十三名参加
- 二、各種大会
 - 第二十一回秋田県居合道大会・段別選手権兼東北予選会 (七月二十六日)
 - 初段の部 一位 齊藤 啓子
 - 二段の部 一位 岡本 金一
 - 三段の部 一位 梁川 登
 - 四段の部 一位 佐藤 恵作
 - 五段の部 一位 安部 文雄
 - 六段の部 一位 栗田 昇
 - 七段の部 一位 田口 英幸
 - 八段の部 一位 阿部 正喜
 - 九段の部 一位 内田 幹夫
 - 十段の部 一位 佐藤 良広
 - 十一段の部 一位 大畑 博正
 - 十二段の部 一位 石田 純士
- 第二十八回東北居合道大会 (九月十五日) 団体の部 第六位

四、居合道、杖道人口の現状について
平成十年度現在の居合道・杖道有段者登録者数

居合道	杖道	
	初段	二段
初段	二七六名	二九名
二段	一五〇名	二四名
三段	一一六名	一六名
四段	六六名	九名
五段	六九名	一名
六段	一〇名	一名
七段	一六名	一名
八段	一名	一名
合計	七一四名	一七名
範士	一名	一名
教士	一名	一名
錬士	一名	一名
初段	二九名	二四名
二段	二四名	一六名
三段	一六名	九名
四段	九名	一名
五段	一名	一名
六段	一名	一名
合計	九二名	三三名

五、居合道、杖道の問題点
昔は、剣道の達人は居合の名人であり、居合の達人は剣道の名人であった。現代では、両者は分的で個別のものとして修業、居合道及び杖道は単独で行われている。杖道が分化されたことにより、剣道を習っている幼少年には他の武道を教えることはほとんどない。

六、居合道、杖道の振興について
現在、居合道及び杖道については、単独で、しかも中高年者を対象とした活動が中心であるが、日本文化である武道として考えた場合、全日本剣道連盟が剣道家のために制定した、制定居合十本並びに制定杖道十本については、剣道指導者として修業してほしい。

具体的対策として、
○各都市連盟の居合道・杖道部の新設。
○剣道稽古会との連携による居合道稽古会の実施。
等により、剣居杖一体となった修業を進めていくことにより、居合道・杖道の振興が図られるものと思ふ。

資料で見る本県剣道人口の推移

— 秋田県剣道人口調査 昭和60年～平成10年までの称号・段位者数 —

級・段 年度	3級	2級	準初	初段	二段	三段	四段	五段	計	六段	七段	八段	錬士	教士	範士	計	総計
60				640	316	200	72	49	1,277	7	5	—	2	12	—	26	1,303
61				848	230	156	31	17	1,282	8	4	1	1	2	—	16	1,298
62				565	287	163	50	47	1,112	6	5	—	10	2	—	23	1,135
63				684	252	170	85	67	1,258	3	3	1	3	19	—	29	1,287
元				805	288	182	51	33	1,359	5	3	—	4	1	—	13	1,372
2				719	314	174	64	28	1,299	7	3	—	5	2	—	17	1,316
3				666	313	170	79	34	1,262	5	5	—	6	2	—	18	1,280
4				592	277	176	38	32	1,115	10	5	—	7	2	—	24	1,139
5	434	560	515	621	288	172	53	22	1,156	4	4	1	6	3	—	18	1,174
6	392	510	504	493	252	183	55	25	1,008	13	5	—	7	5	1	31	1,039
7	364	455	500	541	254	184	52	34	1,065	24	2	—	14	2	—	42	1,107
8	295	443	562	482	464	164	42	20	1,172	14	2	—	18	4	1	39	1,211
9	340	444	589	532	384	170	44	29	1,159	12	6	—	8	1	—	27	1,186
10	351	422	639	552	384	217	46	23	1,222	25	—	—	16	10	—	58	1,280

剣道人口の減少が叫ばれて久しい。本県の人口動態を見て子供の数も激減している。このような状況下、幼少年剣道人口(級位)の微動下降現象があつたとしてもそれは憂うにたらないのではないか。今日の社会のモラル低下を嘆く人々は真の良識人育成を剣道に期待しているという。今こそ会員一丸となつて期待にかなう剣道の創造をめざさねばいけない。

初の全剣連東北地区合同稽古会開催

期日 平成十年十月三日・場所 花巻市武徳殿

平成十年度東北剣道連盟役員会にて上程された全剣連合同稽古会(案)が満場一致で可決、その後全剣連の指導のもと記念すべき第一回稽古会が、岩手県剣連主管で花巻市武徳殿にて開催された。東北六県から多数の剣

友が参加(八二名)、本県からは内山先生以下十五名参加、約一時間半にわたる稽古が熱心に行われた。終了後花巻市剣道連盟の計らいで花巻温泉松雲において懇親会が開催、第一回稽古会を祝う

と共に、第二回稽古会での再開を約束してその幕を閉じた。本県の剣友に対しての連絡が不十分であったとの指摘があり、次回からは綿密に連絡を取り合い、一人でも多くの剣友の参加を期待したい。

奥山京助先生 剣道一口メモ

試合に強い子を 天狗にさせない

ためには!

幼少年剣道において、子供も父兄も指導者も試合に勝つことを強いと思つていのが現状です。もちろん、礼法が正しく、気力も充実した上、理にかなつた打突で勝ちをえたならば大いにたたるべきですが、子供のことですら往々にして天狗になりがちです。指導者は勝負を抜きにして試合内容をよく検討し説明してやるのが、本人にとつても後日のためになることです。しかも、いつも負ける子供も

いますから、大勢の子供の前ではあまりほめない方がよいと思います。他の子供の励みになる程度にした方がよいでしょう。たとえば、「A君は道場ばかりでなく、日常の生活態度がしっかりしている。勝つても鼻を高くして驕るところがないから勝つのでしよう。だが天狗になつたらもう負けるときだよ。このことをしっかりと心に刻んでお友達のためにもしっかり頑張りなさい」

「君が勝つたのはひとりの力ではない。みんなの努力がひとつになつたらなんだよ」 「B君は負けたが、試合は堂々として実に立派であつた。みごとに勝ちつぶりよ、みごとに負けつぶりよ、なかなかなけないものです。他の(剣スキージャーナル)少年剣道指導講座より」

と云つた具合に話してやることによつて励まされ、反省させることができると思います。さらにかかり稽古で徹底的に稽古をつけ、強い人はいくつでもいることを知らせるとともに常に勝つていく子供が、負けた場合、あれは審判の判定が適切でなかつたなどとは、指導者は決して口にしないことです。

この間、各部、各郡市連盟よりお忙しい中、ご寄稿を賜りありがとうございました。おかげさまで充実した紙面の作成をすることができました。紙上をかりて深くお礼申し上げます。

○平成十三年魁星旗三十回記念大会、十四年秋剣連五十周年、十五年県立武道館完成(予定)、十九年秋田国体開催とどれ一つをとつても剣道の文化としての質が問われる大事業が目白押しであります。今こそ尚武秋田の将来を見据え、同時に剣道の本体を見失わないような取り組みが必要と思ひます。

編集後記

○長谷部会長より、題字を揮毫いただき、大変遅れましたがここに念願の会報発行に至りました。この会報「秋剣連」によつて秋田の剣道の時の刻みを正しく後世に伝えるという重大な任務に対して委員一同決意をあらたにした所であります。しかし広報誌は部員の独善であつてはいけません。よく、むしろ広く会員からの誌面に対するご意見・ご協力をいただきます。ご忌憚のないご意見おまちします。